

## 【第4号議案】 事業計画の件

### 2022年度事業計画

#### ・国際会議開催事業

中長期的に、IDW は、現状の分野を維持するとともに、新たな分野を取り込みながら、規模を維持する、または、拡大していく方針である。

2022 年は、12 月 14 日から 16 日の 3 日間、これまでと同様に一般社団法人映像情報メディア学会 (ITE) と The Society for Information Display (SID) の主催で、福岡国際会議場にて第 29 回ディスプレイ国際ワークショップを開催する。組織委員長は木村 睦 (龍谷大学)、実行委員長は大内 敏 (日立)、プログラム委員長は小南 裕子 (静岡大学) である。国際会議の目的・趣旨・開催の形態は、おおよそこれまでのものを踏襲し、これまでと同様な成功を収めることを目指す。中長期計画検討委員会で決定した基本方針に基づき、福岡国際会議場でのオンサイト開催を基本としながら、全社会的な要請にも対応し、オンデマンド配信を併用するハイブリッド開催とする。また、Scope 制を継続し、それぞれの見直しも継続する。研究・開発・産業の動向にしたがい、Topical Session(TS)や Special Topics of Interest (STI)を積極的に活用する。2022 年度は、オンサイト開催をできるだけ盛り上げるために、ディスプレイ技術を広げる“五感やクロスモーダル”のスペシャルセッションやメタバースなどの新たな TS などの新たな取り組みによる論文数増、参加者数増による収入増を目指す。2022 年度もハイブリッド開催を含めた新たな取り組みや新型コロナウイルスの影響への支出を想定して国際会議運営給付金を予算化する。

#### ・記念事業その他

ハイブリッド開催による IDW '22 で特色ある活動があれば検討する。

2019 から導入した IDW の独自の表彰制度“Kobayashi-Uchiike-Mikoshiba Prize”を継続する。

### 中長期計画

#### ・国際会議開催事業

IDW '20, 21 と、コロナの影響でやむなくオンライン開催を行ったため、大幅な論文数、参加者減があったものの、さまざまな施策による支出減などにより大幅な赤字は免れた。しかし、オンライン開催では議論や人的交流の活性化が図りにくいという課題が明らかになったので、中長期的には、オンサイトとオンラインを併用するハイブリッドを基本とすることに決定し、IDW '22 で実施することとした。IDW '22 で実行した結果を参考にして、さらなるハイブリッド開催によるメリットを最大化する具体的施策を提案し、IDW '23 以降の国際会議運営への反映を目指す。

また、IDW '22 以降の中長期的開催方針や施策について、IDW は Smart Society (Society5.0) に向けて新しい分野を取り込むことで拡大を目指すという基本方針をもとに、AI やメタバースなど IDW '21, 22 で実行した結果も参考にして、さらなる参加者数や論文の増加を目指す。

以上